

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	水辺環境論 [Theory of Riparian Environmental Conservation]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	236200	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	中野 光謙				学位授与の方針 との関連	DP1(1)	
授業概要	<p>本授業の目的は、学生達が水辺の生態系の仕組みを理解し、生態系の保全・再生のために必要な技術を理解すること、および、良好な水辺環境と共存する地域社会づくりを実践することが出来るようになることです。水辺の生態系の特徴と仕組み、および水辺に生息する生物の生態について解説します。また、水辺の生態系を保全するために有効な技術と政策について、具体的な事例を紹介しながら解説します。</p>						
関連する科目	環境緑地論、環境調査及び再生論、ビオトープ論、環境緑地論実習、水辺環境論実習						
授業の進め方と方法	授業の前半は講義を聞きながらワークシートに取り組みます【知識・理解の獲得】。後半は、小テストや課題に取り組み、前半の学びを発展させます【汎用的技能の育成】。						
授業計画	<p>第1回 概論 水辺環境の特徴や生物多様性の現状等について学びます。</p> <p>第2回 河川の生態系(1)物理的構造</p> <p>第3回 河川の生態系(2)藻類、底生動物</p> <p>第4回 湖沼の生態系</p> <p>第5回 水田地帯の生態系(1)水域ネットワーク</p> <p>第6回 水田地帯の生態系(2)圃場整備事業と環境配慮 各水域ごとに生態系の特徴について学びます。</p> <p>第7回 魚類(1)生活史と回遊</p> <p>第8回 魚類(2)種の多様性</p> <p>第9回 魚類(3)生物間相互作用</p> <p>第10回 魚類(4)保全と外来種問題 魚類を事例として、最先端の学術的知見や先駆的な保全活動の実践例等について学びます。</p> <p>第11回 貝類(1)生活史、保全</p> <p>第12回 貝類(2)生態学的機能</p> <p>第13回 貝類(3)外来種 貝類を事例として、最先端の学術的知見や先駆的な保全活動の実践例等について学びます。</p> <p>第14回 植物 水辺の植物を事例として、最先端の学術的知見や先駆的な保全活動の実践例等について学びます。</p> <p>第15回 鳥類 水辺の植物を事例として、最先端の学術的知見や先駆的な保全活動の実践例等について学びます。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水辺の環境特性と生物多様性、および生態系について基礎的な事項を理解します。【知識・理解の獲得】 2. 水辺にすむ動植物を保全するために必要な知識を獲得します。【知識・理解の獲得】 3. 水辺環境を保全するための方策を自分で考え出す思考力を養います。【汎用的技能の育成】 						
授業時間外の学修	<p>予習は必要に応じて授業中に指示します。復習については、毎回の授業後に20～30分間程度、各自でノートと小テストを再確認してください。</p>						
課題に対するフィードバック	ワークシート、小テスト、課題は評価後返却し、解説します。			評価方法	提出物(ワークシート、小テスト、課題等)100%で評価します。ただし、出席すべき日数の3分の2以上の回に出席することは要件です。		
テキスト	なし						
参考書	『河川生態学』中村太士ほか 著(講談社)、『河川生態系の調査・分析方法』井上幹生・中村太士 編(講談社)、『河川中流域の魚類生態学』片野修 著(学報社)、『淡水魚保全の挑戦—水辺のにぎわいを取り戻す理念と実践』日本魚類学会自然保護委員会 編(東海大学出版会)						
備考							